水族寫真

鯛部

巻之一下

特 7
152

国立国会図書館　タイトル『水族写真鯛部』　請求記号 特7-152

ガラス使用

伊藤文庫

水族寫眞説卷之一

東都　奥倉辰行著

鯛之部

三四 たひ和名抄ほんだひ大坂まだひ駿州をひら日東魚譜
ひら同上 たひら同上 初め江海廿五六尋の地より産す。稍長
深海洋中より出て一處に栖ず。諸國海嶋に數万群行す。
四時共に是あり。冬月より初春までの間味尤美あり。小なる者一二
寸に尺餘。尤大なる者は三尺に至る。寒中より腹に子あり。大抵節分
より六十日を得る頃に産すると一番子と云。四月中旬に至て産すると
二番子と云。梅雨に至て産すると三番子と云。漁人云。初産の子は皆生
育し。中産の子は半生育し。後産の子は悉く皆生育せず。又三月
の頃浅海へ來り。砂中に半腹を埋めて子を産す。産し畢て又

国立国会図書館　タイトル『水族写真鯛部』　請求記号 特7-152
ガラス使用

浮游す。故に其頃は多く得やすきなり。大抵網にて捕る。若釣もまたはりにてまたはえびの類を餌とす。

皇國古來より鯛を以て一折とす。鳥類と同く必雌雄を分別せざるべからず。雄魚は形雌に比すれば少く長く、色淡黒紅斑帯ぶ。頭節だち、眼稍小、肉こまく、斬とりて肉裂す。故に庖人之を忌む。形状凡て雌より惡し。價も亦賤し。雌魚形肥て圓く頭に節なく、色鮮紅にして油少く、肉硬かしく、性味共に雄に勝る。故に價も亦貴し。尾てたひにかぎらず、諸魚共に雌雄の別、大概此の如きものなり。

古來より言傳に、鯛の九ッ道具と所持るべし。物に不自由なし。又福祿を得ると云り。張朱鱗寶暦年中東都住人龍宮舟に云、棘鬣魚の三ッ道具、十四五年以來誰人の云出せしか。鯛の頭に鍬鎌熊手とて、此形に似たる骨あり。是を俗に三ッ道具と名付。此三品の骨と、三通り懷中

すれば諸人愛敬ありて、或は官階立身有て望事思ふまゝなふと云。

鯛石　頭上にある石なり。此石たひにかぎらず諸魚に皆あり。凡て石大なる魚は浮ばず、又驚易し。是魚の心なり。或云耳なり。

大龍　眼の下にある大骨あり。形龍に似たり。

小龍　尾の端にあり。大龍に似て小さし。

鍬形　背鰭の下にあり。

鯛中鯛　兩旁の鰭の下にあり。形鯛に似たり。

竹馬　尾の旁にあり。

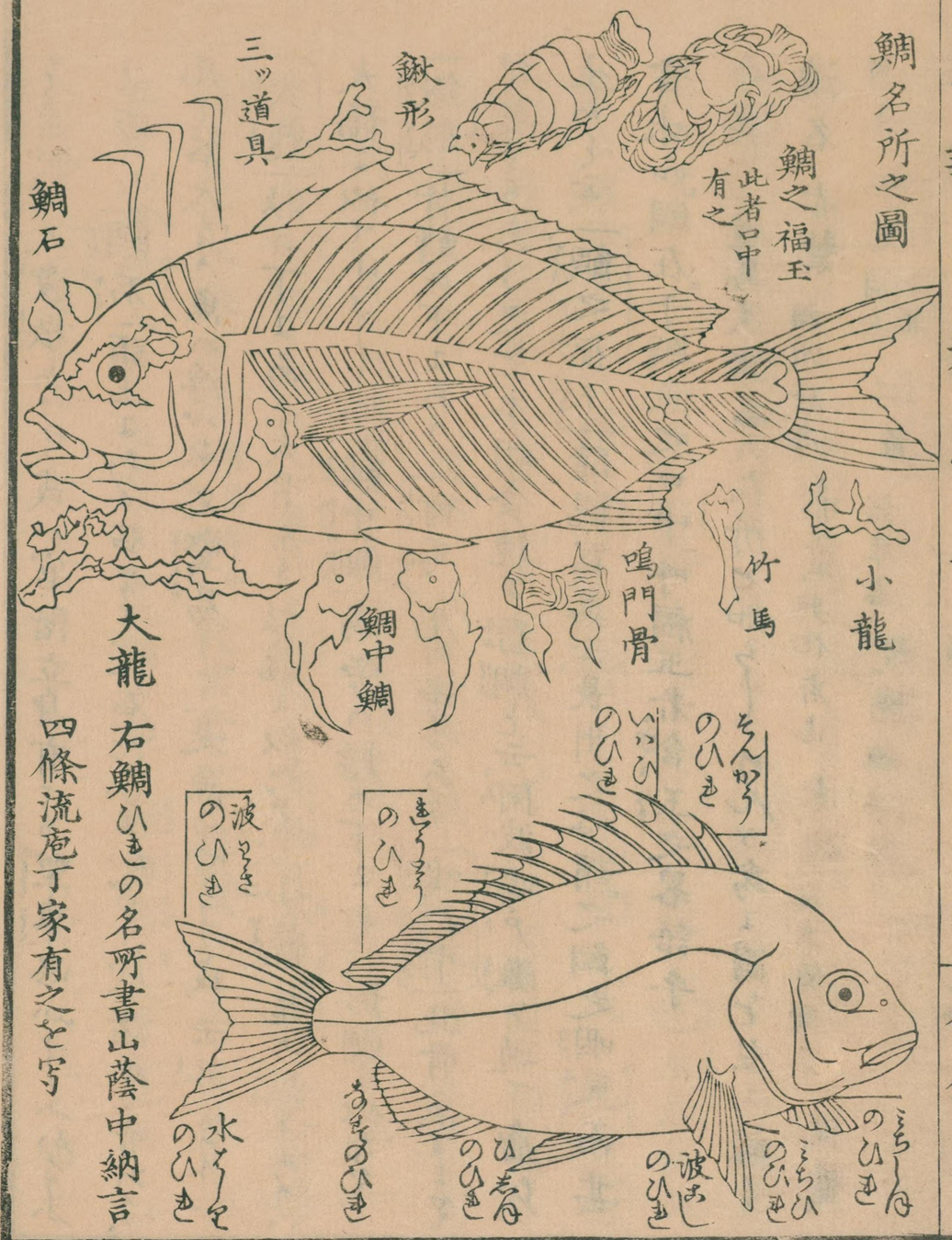
鳴門骨　此骨魚にもて無きもあり之を本朝食鏡に瘤鯛と云。阿波鳴戸灘を過て瘤鯛生ずと云。

鯛之福玉　隨觀寫眞云、長州之俗謂之鯛之咽喉而甚賞味如鯛在于鯛魚之口中、呼福玉者。含玉之畧語乎。

今其三ッ道具及諸名の在所を知らしめんが爲に圖を左に錄す。

漢名　赤鬃　福州府志　赤鬣　興化府志　赤鯨　異魚贊閲集　交鬣　同上　紅翅　同上小者　紅魚　然犀志　鮫鱷　雜字簿

鯛名所之圖



二 かもだ 江戸 かもごだひ 同上 小瀧鯛 和漢三才圖會 血鯛 海魚考 ひゐだひ 大和本草 くちめ 薩州 諸家の説名異と雖ども皆一魚にして今云かもだひなり。四時共に之を採る。冬月多く寒中盛なり。形真鯛に似くかく。まだひの小なる者と混じ易し。但鱗色淡黑に淡紅を帯ぶ。又淡青の小條頭より尾に至る。眼は真鯛より稍大鮮明なり。大なる者一尺許に過ぎず。肉は真鯛より軟かにして味淡く稍劣まり。然共十月頃味美し。江戸の高價一月惠比須神と祭るに必ず鯛と以くべし。多は此魚なり。當時此魚盛に上る故なり。

漢名棘鬣魚 八閩通志 先輩棘鬣と以く真鯛に當るは誤なり。棘鬣は今云かもだひなり。

一 めのこだひ 隨觀寫真 形狀大小共にかもだひに同じ。但惣身節なく圓形なり。鱗色淡紅にして背に白星或は碧星を帯ぶるも有。

国立国会図書館　タイトル『水族写真鯛部』　請求記号 特7-152
ガラス使用

かそこだひの一類なり。或云かそこだひの雌魚なりと。仲秋の頃大さ一二寸なる者。江戸の魚市に來る

五 さくらだひ 通稱きだひ 物品識名綱の鯨掌中市鑒金色鯛 備中

此魚季春櫻花開く頃に漁す。常の鯛と同時なり。其形狀真鯛と同じて。圓に肉厚く肥て。味佳美なり。此鯛中の最第一なり。此魚備中にて。初鯛又金色鯛と呼。藝州にていさくらだひと稱て賞翫なも價尤貴し。江戸魚市にハ皆混稱ふしてだひと呼ひ。辨別を爲ず。真鯛と金色鯛とハあまだひときんくづなるが如し。

六 ほーだひ 下總銚子 てるまる 江戸魚商 形狀かそこだひと大抵同。但形圓に節あり。身稍長く。鱗色淡紅に。背脇に紅点を帶ぶ。子を産るハ真鯛より稍後なり。四五月多く漁す。肉軟にして味も劣る。因て價も亦賤し。

七 ちあをまだひ 通稱あをまだひ 對州 ちあまだひ 越後 までろ

大坂冬春共に多く網にて採る。形狀まだひに似て身潤く。額上高く起る。其頭方にして。微くあまだひの頭に似て大なり。大さ五六寸より尺に過ぎ常に海上を羣游す。子を産る支真鯛と同時なる。味真鯛より淡く。あまだひに迫し。其肉柔和なり。寒中貯へ置くに。譬へばまだひハ三夜なれば。ちあをまハ二夜なり。猶ちがきとをふつまとの如し。

八 さるまだひ 江戸 瘤鯛 食療正要 ちんーろ 同上 くづな 同上 まろだひ 同上 三折鯛 隨觀寫真

形狀性味共に前條のちあをまと同。頭少し異なり。眼上に肉出て瘤の如く。又凹處有て其面猿に似たり。因て江戸にてさるこだひと云。婚禮に此魚を用ひ。其さるを忌なりとぞ。

九 きかもだい 江戸あらめ 房州 ほりこうだい 食療正要 えなさき
ほーだい 日東魚譜 きちだい 隨觀寫真連子 饌書 鼻折鯛 海魚考
大鼻小鯛 同上 あかたまこだい 對州 こだい 越中 きだい 駿州 此
魚國ヨ因てありだい又あらめ共云つまバ日本記神代卷ヨ載
る所の赤女ハ赤鯛なりと云説ヨ從ふべし。此魚日本記の赤女なるまバ
口女ハ今云かもだヨ論あり
時々魚市ヨ來る。形狀たまをまだいヨ似く。身扁くして短し。
頭大。肩いかり。口稍大。鱗もあらく。全身赤色ふして。淡青色のたて
筋數條あり。又金色を帶ふ。脇ひき長く。尾鰭黃赤色ふして赤
班ありて。眼の内赤し。小なる者三四寸。大なるハ一尺ヨ至る。冬月來る。
夏の頃ハ見へず。肉ハ柔和ふして脂少く。性輕く毒なし。然ども
腐易し。又鱗ヨ金色の点ある者あり。形狀ハ異なれども。蓋一類
なり。

漢名 黃鯧魚 漳州府志

十 くろだい 通稱 ちんのうを 壹州 ちん 同上 常ヨ江海の泥
中ヨ插て。浮游せず。大魚ヨおきども洋中ヨ出ず。故ヨ江戸近
海品川神奈川或船橋邊より魚市ヨ來る。形狀まだいヨ似て。
身圓ヨ短く。肉肥て。眼少く大。鱗色淡黑ふして微紅を帶ふ大
なる者ハ一尺餘。味まだいヨ劣りて。形狀産處ハかいりきちぬ
ヨ相似たれども。其形狀性味皆勝まり。此者真のくろだいなり。
味美と雖ども血を破あり。漁人云。くろだい海中ヨある時ハ鱗
ふ紅色を帶ふ陸ヨ出まバ青黑ヨ變ず。真鯛ハ海中ヨある時
ハ鱗鰭ともに微赤ふして淡黑青を帶ふ。水を離まハ赤色ヨ變ず。
漢名 海鯽 閩書 南産志 雜字簿

十一 ちぬ 通稱 かいつ 和漢三才圖會 くろだい 江戸 ちちゆ 江戸魚商

さゝやきだひ 日東魚譜 越中 かんだひ 同上 うきがらも 藝州 もず 物品識名 四時共にあり。冬月上總勝山より多く江戸に來る。故に魚市、かちやきと呼ぶ。是くろだひの一種なり。形くろだひに似て、頭尾鋭く、鱗色淡黑ふして深黑の横文あり。頭ハ深黑にして墨を塗たるが如し。肉色白く、中に筋の如なる者あり。味美なれども自ら泥臭氣あり。其性宜かるべし。人に益なし。腸甚だ大毒あり。食べからず。土民ハ以て美食とすれども、王侯の用に供せず。其初生河海の交にありて浮游せず。然も季春以後ハ浮游す。四五月頃ふ子を産す。真鯛より凡十餘日も後あり。八月の頃味美なり。此魚性情甚かしこくして捕得がたき者なり。漁人之を捕るに先ずやきと見せば、魚早くも地ふ横さまふ附く。然と窺ひよりくやきをつく。又網を投

まゝバ魚網の下に潛伏す。暫く網を其まゝふ置。魚の漸く浮き出る頃を考て網を引けバ悉く得べきなり。又釣家ハ二度めふ食を引上ると云。それハ初め餌を引時ハどうもくも絲をゆるめく引くふ任せありて其後をろ〳〵と引上る妙あり

漢名 鳥頰魚 海錯疏

十二 あろだひ 藝州 ふろだひ 同上 ふだひ 長崎 洋中ふ生ずる魚ふして常に石砂中に栖む。五六月の間是を捕る形狀大抵かいづに同じ。眼ハ稍大に。嘴尖。頭少く小し。諸鰭大なる全身淡色ふして。背に淡黑と淡紅を帶ぶ。味真鯛に次く。其性真鯛とちぬとの中間の者なり

漢名 白鰹魚一名蜂頭魚 清俗鮭蔬通語 質問品目志

和名抄引食經云。庵魚形如鯛魚淡灰色。和名くろたひと訓ず 即今のあろ

だひあり。又同書ふ弁色立成を引て。海鯽をちぬと訓まこれ今のくろだひあり。但し當時くろだひかいづの別あり。共ふちぬと言へるあり〳〵

十三 ちまころ鯛 食療正要 ちろ〳〵だひ 海魚考 是こせうだひの一類ふして。其性大抵同し。三月の頃時々これを見る。形狀いさきふ似て扁く。縱筋大ふして黑色の点あり。腹ハ淡黃綠色。背の鰭微こ黃赤色を帶ぶ。尾ハ黑白黃三色まじる。全體黑赤黃色あり。大さ三五寸許て。ふ魚なり。性味ともふ佳なり

十四 きちぬ 大坂 ちちぬ 藝州 あい 九十九里 江海泥中ふ生ずる小魚なり。住處形狀共ふちぬかいづと大抵同し。甚辨し難し。然ども其性ハ異なり。神田玄泉の日東魚譜ふ海鯽の能毒を書ハ大抵此魚の事を説くふ似たり。今藝州の人ふ問ふ。此魚を煮食ふ時ハ惡血を破て生血を益す。人食て能あり最痔疾産婦ふ宜し。といへり又掌中市鑒ハ

ちぬハ海鯽乃一種なり。濕毒を治す能あり。故ふ食てよし

といへり。形狀ちぬふ似て。尾鰭長く黃色帶ぶ。鱗大ふして。淡里乃筋頭より尾ふ至る。頰と腹の脇淡黃色。大さ七八寸ふ過ず。くろたひ ちぬかいつと共ふ黑鯛の名あれバ混じ易し。但このひすハ老まきバ大洋へ出る。且甚多し。黃ちぬハ長しても大海ふ出ず且甚少し。これ以て異なるを見て秋頃江戸の魚市ふ来る。尚圖説を以て併せ考ふべし

漢名黃翅 臺灣府志

十五 ふるふきだひ 江戸 ふるびすだひ 本朝食鑑 をくめだひ 海魚考 西國 初夏の頃江戸の魚市ふ稀ふ来る。此魚西ふ多く採る。形

狀志ろたひに似て身短く。眼大かして高く付。嘴尖て其先少し青く口小く。齒真鯛よりも小かく。鱗色淡紅かして淡黑を帶ぶ。尾鰭ハ廣く黃赤色か淡黑を帶ぶ大さ五六寸よりも大かるを見も。身肥て肚多く臭氣あり。性味共真鯛か劣る和漢三才圖會云。笛吹鯛。狀似鯛而淡紅色。口尖長似吹笛者故名と是かり。

漢名青嘴魚 清俗鮭蔬通語 質問品目志

十六 わらくろだひ 俗称いさゞだひ 同上 形いさきに似て身濶く扁に。眼大かして。口ハ大からず。全體前條の志まさろだひか似て一類なり。色ハ異かり。味性皆同し。

十七 へだひ 江戸ひよちぬ 隨觀寫真こちだひのみと 越中まかあかだひ 京都 江海泥中に產る小魚かり。形狀くろだひり似て頭小に。背腹起て圓形かり。身扁し。故かへだひの名あり。尾鰭大かして。鱗細く。全身青色を帶ぶ。眼と頰と黃赤色。又頭より尾に至る迄黃赤の條有て。其上か金点を帶ぶ。大かる者八尺餘か至る。小なる八五六寸。夏秋是を採る。十月の頃旬とす。肉脂多く味美かり。京師の人甚賞す。按に此魚形狀性味共かまかつをか類も。

十八 めだひ 江戸志まぬだひ 海魚考 冬より春迄これを捕る。房州より江戸魚市に來る。大抵二三尺許。小なるを見ず。形狀むつか似て口小に。眼甚大かして。口唇の傍にあり。鱗色青黑かして微赤黃殘帶ぶ。全體ぼゝの形に似て。身肥て。幅廣し。鱗ハぼよりも細かて。肉に脂多く。軒かして宜し。又味噌漬麹漬とかす。其肉まかつをか類も。

十九 まかあぢだひ 物品識名 くまあぢ 食療正要 形狀未詳

あぢ及びまかつをに似て、鯛の種類にあらず。八九月捕る。常に見へず。全身淡黑に黃青白の三色の混たる斑あり。鱗に光を帶ぶ。尾鰭は青黑色。眼の中白くして鮮明なり。尾の上に短刺並て疵の如くなる者を出だす。味性ともによし。

二十 萬歲鯛 隨觀寫眞 ちろまんだら 同上 ひようぢよ 同上 やまのかつを 江戸魚商 まかがつを 本朝食鑑 江戸俗稱 此魚三四月頃稀に來る。江戸にては眞のまかつをなし。故に是をまなかつをと云。南海に産する眞のまかつをは肥も甚だ肥大にして眼口とも稍廣く、鱗は粗く、其間多く短刺を出す。背の色青く、腹乃辺は紅黃相交て、又鱗毎に金点を帶ぶ。大さ

一二尺。其肉淡紅に脂ありて、かつをの肉に似て色淡し。腹の内に板骨ありて、かつをの類なり。形狀性味何れもまかつをに近し。

二十一 まめのたなだひ 日東魚譜 うぞせ通稱 いぞだひ 江戸 いぼせ 同上 いぼ 仙臺 あぶらこだひ 同上 あまぎ 備前 ちぢ 藝州 げんぶ 同上 海底泥中に産する小魚なり。形狀へだひに似て小く、背腹のひら短く連なりて尾に至る。全身細鱗にして甚脫やすく、無鱗に等し。其色白く雲母を塗たるの如くして淡紅を帶ぶ。春秋之を採る。大さ三四寸或は五六寸に過ぎず。身扁にして肉少く、煮食に宜し。かんぶ、鮓とすべし。骨軟にして頭とも共に食ふ。鮓に作て鯛鮓の偽物とす。故に江戸の鮓商は專ら是を重ず。是まかつをの一類にして小なる者なり。

二十二 かぐらだひ 通稱きんかぐらだひ 江戸 かぐらを大坂くるまだひ
食療正要 越中 ばとう 同上 尾州 わせ 海魚考 まとうと 相州 ぜふだひ
豊後 かねたたき 佐州 たたきがね 海の幸 形狀ひらあぢふ
似て背鰭長く其先に綿を出す其長さ尾に等し腹の下背
の脇ともに強き短刺を並へ連ね全身扁に薄く刀を以て剪
たるが如し色薄黑青に黃赤或ハ金光の處あり背腹の正中に
黑圓点ありて錢の形に似たり皮薄く骨脆し肉白く味美と
いへども食饌に當らず腥氣強し新鮮なるを煮上て速に食く
味美し煮置たるハ毒あり食べからず又ハ身として食して
宜し

漢名 壽仙魚 清俗鮭疏通語

二十三 きんかぐらだひ 越中 くろかぐらだひ 下總銚子 隨觀寫眞 ぎんだひ

形狀前條の鏡鯛と同して色ハ異なり全身淡黑青に少く黃
赤を帶ぶ銀箔を塗たるが如く背に圓暈ハあり身短く圓
形なり此銀の者と前金の者形狀相似て其地産ハ同かるべし銀
かぐらだひと下總九十九里又銚子邊より春の頃來る大さ一尺許
あり味劣る金かぐらだひハ相州豆州の海に春秋冬共に之を採る
大なる者ハ尺五六寸に至る味ハ銀かぐらだひに勝れり二魚の圖說併
考すべし

二十四 かんざしだひ 江戸俗稱 あかしだひ 同上 形狀きすとだひに似
て甚小く身薄し背の上青黑色にして黑色の虎班あり或云
先年江戸吉原の遊女七越と云者此魚の形を以て簪に製して
挿す市中の婦女一時皆此製に習つて以て首飾とす故に此
名あるべし其産處性質共に未詳なるべ

二十五 きすこだひ 物品識名 九十九里かぐこだひ 同上 ちろまるがつを 江戸 江戸近海稀ニ地引網ニ入る。又九十九里ヨリも来る支あり。全身まかりをニ類て。形方ホーて扁く。背の上の鰭と腹下のひきと細長く出て甚狹し。又両脇の鰭も大なり。尾ハ岐ありてあぢ及さゞの尾ニ似たり。鱗あり。皮ハ薄し。銀光ニ。背ハ淡青色腹ハ淡青淡紅を帯ぶ。大さ五寸四方許て。上下の鰭長さ一尺あり。江戸の魚商ハ俗ニまるがつをと呼ぶ。或云。まるがつをの雄なりと。肉脂ありて甚美なり。茶人此魚を塩蔵して甚珍重ス。以てまるがつをとなす。

漢名 鱠魚 漳州府志 海錯疏

二十六 きぐめだひ 江戸 きぐめうを 同上 潮吹鯽 隨観写真 ふな 越中 岩石砂中ニ栖む小魚なり。大さ三四寸許て。形狀ふなニ似て鱗鰭共ニ硬く。又たひニ似て頭小口細く。鳥の嘴ニ似たり。鱗色赤褐色ニ腹ハ淡青を帯ぶ。眼の内赤く。形恰ニして背びきホなり。性味共ニ詳ならず。

二十七 あゝ母だひ 越中 ひさのうを 筑紫 くろうを 長崎 瀬魚なり。形狀及栖む處を大抵ホせうだひニ同じ。全身扁く。鱗至て細く。あゆるめの鱗の如し。口ホニ。口中ニ齒なし。背の色黑く深黑淡黑の斑点文相雜る。尾ひきと及腹の下黄赤色大さ尺ニたらず。是ホせうだひの一類ホして。味性ともニ同じ。

二十八 うばせだひ 江戸 あるこだひ 水戸 ひさのうを 大和本草貝原氏 越中 ひさ 云。久の魚。黑色のひさの魚ニハ異なり。鮒の形ニ似てたてもどあり。其筋の色濃淡交て。口細く。背ニ光あり。味よし。性来詳云云。是瀬魚なり。石砂中ホ栖て水面ニ浮ぶ。固く鱗間ホ砂を帯ぶ。形

狀もぐめだひよ類も、又うぼせよ似たる故、俗ようぼせだひと呼ぶ。常に水底岩石間ふ在て出ず、因くあるおだひの名あり。尾鰭ハくちぶと魚よ等し。大さ一尺許も、性味佳し。

漢名 石鯽 雜字薄 質問品目志 清俗魃疏通語

二十九 久鰭（ひさ） 大和本艸 ひさまだひ 大坂 ひさうだひ 江戸 こぜう 藝州 ちぢ

だひ 越中 さくだひ 瀬魚ふして、常よ石間藻中よ在く水上よ浮ゞて、故よ漁人ひさを釣る。形狀くろだひよ似く扁く、幅廣く、頭縮くふし。尾ハ岐なく、鱗細よ、めぐるの鱗よ似たり。口ふして外面より齒見へず。全體淡黑よして、別よ黑色の横斜文三道あり。又背通ず尾よ至るまゞく、小圓の黑点あり。大ハ尺餘、小々三四寸。冬月ものれを捕る。三月子を産も、其味真鯛より淡くして毒なし。性佳し。生食熟食共よ宜し。

漢名 鰡魚 雜字薄

三十 つゞくだひ 江戸 ちまひさ 丹後 宮津 つゞめうを 同上 まゝうを 隨觀寫真 ちゑひろ 形まるがつをよ似く短し。全身真圓なり。鱗色淡黑ふして、背より腹へかけく青黑色の斑竪ふ三四道あり。上下の鰭甚廣、大尾よ連る。鳥の翼よ似たり。尾ハ扁ふして岐なし。鱗細よひさだひよ似く皮肌薄し。冬月時よ魚市より来る。味性ひさだひよ等し。故よちまひさの名あり。或云あゆなるめよ類もと。

世一 不うぞうだひ 大和本草 くだひ 日東魚譜 くるいだひ 西國 此魚中國よ多し。江戸近海ハ稀よあり。江戸もく云ひさうだひ 即ひさの一類ふして、其産處形狀共よ皆同し。但ひさうだひふ比もまく形微く長し。尾の方小よ鱗色淡黑ふして微赤又

薄青を帯ぶ人形色の横筋頭より尾に至りて數十條ありて其筋細き縄をよりたるが如し背鰭尾共に黒点多し其餘にせうだひに異なる處なし

世二 きんちやくだひ 江戸 志まいぎ 房州 きんちやくうを 勢州 あをたひ 物品目録後編 びろうどうを きやうげんそうを 藝州 瀬魚ふして

夏月多し此魚鱗色種々あるべく一般なるべし大抵にせうだひに似て胴つまり頭はめでるに似て腮の傍に大刺を出す鱗極て細く皮の上天鵞絨の毛織の如し因てびろうど魚の名あり味美也其性味皆にせうだひに類す藝州にて此魚を田植の節里民の定食とす炙食に宜しと云あをたの名蓋

世三 志かくだひ 江戸 そけだひ 同上 うをたびら 隨觀寫真 あふぎ

うを藝州形方にして扇を開きたるが如し背腹上下に小鰭あるべし夫に短鰭尾に連て刷毛の形の如し故に此諸名ありて其長と幅と寸尺同じ鱗は細にして全身淡紅濃紅の斑相交て美麗なり冬春稀に魚市に來る小なる者は一二寸大なる者は一尺許り肉に脂あるべし味美なり其産瀬魚にして性はめでる にせうだひに類す

世四 志まいしなへ 隨觀寫真 くちびそ 中國 荒海の磯岩石間に栖む小魚なり形狀にせうちぬに似て稍長く赤黒色の斜文數條あり目大にして黄赤あり嘴尖て口中の前の處に小齒並べあり頰下に小刺三四本を出す全體めでるに類く身濶く扁し背鰭後と腹の下後の鰭と共に筋あり肉鰭の如くしてうべせだひの鰭に等し尾は小岐あるに似たり鱗色

大抵ちまちぬと同じ。

世五 ちまいんだひ 江戸ちまちぬ 大坂小賓たなお 隨觀寫真筋魚
大和本草 伊豆七島記 こづくま 壹岐海の瀬に掘む小魚あり。形圓やゝて
身扁く。頭小。尾に岐あり。うゝたなおに似て鱗あゝく且黑
眼の中青黑く。背の方淡黑。腹は黃色を帶ぶ。濃黑色の斜文
數條あり。肉小脂油あり。味ちかくだひに類す。大さ僅に三
四寸許。大魚を見ず。

世六 奴鯛 隨觀寫真 さゝげんたうま 大坂 形狀ちかくだひに類し
て。身形圓に。肉至て扁く。天狗だひに似て鰭短く。背鰭の前
に短刺を出す。其嘴尖りて。口至て小なり。鱗色淡黑黃にて
く淡紅を帶ぶ。又竪に黑色の間道あり。背鰭の半に濃黑の圓
点一ツあり。是小魚小にして。僅三四寸に過ず。性味共に天狗だひ
の類なり。

世七 えさだてだひ 肥後八代 あうもだひ 食療正要 即蝙蝠鯛の意
なり。形狀天狗だひと一般小にして。背の色青綠に黑章を帶ぶ。
大さ一二寸。或說に。こゝ天狗だひの小なる者なり。長さ三ばに天狗
だひとなると云へり。非なり。

世八 てんぐだひ 江戸よふだひ 水戸ちをふきだひ 同上 ひげだひ
長崎 たたさー 土佐 たたらを 伊豫宇和嶋 形狀奴だひに似く
背稍高く。腹平に。身短くして。頭口共に小く。嘴尖て。頭に鱗
なく。尾小にして岐あり。背鰭甚大なり。又背鰭の前に大刺一本
を出す。其刺象牙にて製したる箸に似たり。腹下の後鰭の前に
も大刺を出す。又諸ひれ尾共に其筋あゝ。鱗色淡黑にして
淡紅を帶。又背より腹中下竪に黑條あり。大なる者一尺餘に至

る。是も瀬魚ふ〳〵て、性味共ゑ[illegible]だひゑ近し。但し軒ふして宜し〳〵と云。冬春魚市ゑ來る。

三十九 せごだひ 隨觀寫真 海の瀬戸ふ栖む鯛なり。故ゑ瀬戸鯛と名し、形狀くろだひゑ似て身短く、鱗大きく、又天狗だひゑ似て、頭口共ゑ大ふして、背鰭の刺太く、鱗色黑し。腹淡黑、尾ひも及び處々淡紅を帶ぶ。其性味ともふ大抵くろだひゑ類す。

四十 きぢだひ 日東魚譜 きぢうを 同上 大和本草 をさんだひ 物品識名 さんさだひ 同上 きゝだひ 江戸 きぢかさご 同上 さんきけだもの めし 食療正要 かゝきうを 越中 さんのゝ 伊豆 だて 相州 淺海岩石の間ふ栖む小魚なり。形狀きゝろ及きうをふ類す。鱗色淡黑ふして、頭より尾ゑ至るまで、黑色の條文あり〳〵。其間白書三の字の如し。肉柔和ふして味短く、病人食〳〵毒なし。

冬月雜魚中ゑ入〳〵魚市ゑ來る。然とも多うして長五六寸許ゑ至大なると視て、又〳〵ぶぎの初生四五寸までを江戸の魚商きゝと呼ぶ。此魚と其形相似〳〵混し易し。故ふあきをきゝだひと名ぶく。

四十一 ゑこだひ 隨觀寫真 ちやうせんひさ 海魚考 ゑきぬだう 同上 ねこ〳〵 越中 形狀ゑせうだひゑ似て身潤く短く、頭眼口共ふ大なり。牙齒鋭く、並て鋸の如し。鱗色淡黑ふして薄青黃を帶ぶ。全體ゑ濃黑の圓点あり〳〵あり。頭ハ黑く墨を塗ゞ如し。尾鰭ハ黃赤ゑ淡黑の班を帶ぶ。大なる者二尺許ゑ。或云此魚腸ふ大毒あゑ。

四十二 たゝ〳〵ゑだひ 隨觀寫真 屋ふ出ぬ 紀州 ふ〳〵きだひ 同上 接ゑ 此魚ゑたゞうをゑ類す。全身紅色ふして、中間堅ゑ黃色

の一大紋あり。又鱗本一点紅を帯ぶ。頭上に黄なる處あり。眼口紅色。尾ひき赤紅色淡黄相交る。最も鮮明にして美麗なる。是もうをの類にして。鯛に至て身狹く。肉厚し肉脂油少く。味淡し。長さ尺餘に至る。

四十三 ひめこだひ 隨觀寫真ふしきだひ 日東魚譜 こたちめ 越中 是洋中の小魚なり。形狀にだひにもひめだひにも似たる故にひめにだひと名づく。にだひに比べ色バ身狹く。長し。眼ハ大にして突出す。口ハ大にして。口中に細齒あり。腦上に濃紅の一處あり。眼口唇紅色。背方紅色。又背腹の間に一大黄條ありて。横に尾端に至る。鱗毎に紅点あり。背の鱗及尾共に緑色の点を帯ぶ。長さ一尺許。肉厚く。其色白く。透徹して。脂油少く。味淡し。

四十四 せいがいだちめのみに越中 此源八だひの一類にして。小魚なり。形狀こだひに似て。稍長く。背鰭と尾の先とに一條づゝ緑の如き物を出す。鱗色淡紅にして濃紅の班文ありて鮮明なり。此魚たひの名あれども。さもてぐも其形味共に源八だひ きかすぎの類なり。故に此に録す。

四十五 源八だひ 海魚考 長崎 きんかとぐ 相州 てらうち 同小田原 しゐかづ 伊豆 いとかさご 江戸 形狀こだひに似て。頭かづの如く。眼凹く。鱗色きかすぎに似て赤く。鮮明にして。金光又銀光の点を帶ぶ。形扁に。背腹共に肉至て薄し。口ハきんとび。鱗ちいさく。目中黄なり。背鰭の上に一條づゝ緑の如くなる者と二本出す。尾先長して尖る。鰭尾黄赤色。肉透徹して味きかすぎと同く淡し。其性味かすぎに勝れり。

四十六 ありさを 江戸 ちとうご 伊豆 きんだちめ 越中 春の頃

稀に江戸魚市に来る。形狀小だひに似て身長く又糸より
に似て身扁く頭小に眼大鼻圓にして短し。諸鰭大に尾
ハ廣く其の上下の先細長く出る。目そよごの尾の如し。鱗色
黄紅に尾鰭共に同色なり。又両頬に淡黑の處あり。味淡くして
くいなどに同し。

四十七 目そよごに江戸形狀いなさぎに似て身狹く長し。鱗色
淡紅に背と腹との中間に黄條あり。口傍より尾先まで
に至る。背鰭の後より一條絲の如くなる者を出す。尾ハ燕尾ふ
似たり。此魚たひの名いなさぎもいとよごいめそぎ目そ
よごに此三種皆同類にして味も似たり。故に出す。

四十八 いとよごを通稱いとよごだひ 同上 いとよごを尾州いとあらを 京師
いとよごを薩州 ふぐこ 泉州 ちやうしん 越中 大海中に捕む小魚
なり。大さ中だひに似て身狹く鱗色淡紅なりて黄と青と
の筋數條いなり尾の末上の方に黄色の一絲を出す。此魚海上
に浮游する時ハ黄絲とするが如し。故に此諸名いとよごに肉白く
透明通る。味あまだひより淡く上品なり。性毒なく病人食
に宜し。諸州共にいなり。但多くハ得がたし。春時雜魚に交
て魚市に来る。大さ一尺許。二月の頃子を産す。

四十九 あまだひ 通稱たひ 駿州くづだひ 西州壹岐くづだひ 越中あまのうを
肥前 海中二三十尋の處小石砂に棲む。常に浮游せず。形狀性
味共にいとよごに似て目の上高く起て頭形はかやだひ
に似たり。鱗色淡紅青を帶ぶ。肉ハ脆く柔軟にして
易し。味甘美なり。凡て頭の圓き雌魚にして肉も軟なり。
赤くづな 海魚考 紅くづる 同上 此魚三四月多くあるを捕る。

常のあまだひの紅色稍多者なり。

五十 金くづな 長崎 海魚考云。稍大にして其色赤くづなに同し。

但目の下より口の邊に至り黄色金の如し。中間一條の小白路あり。其鰭上〳〵半ハ鮮黄。下半ハ淡紅。其尾又黄章あり。腹下の鰭青し。俗に傳ふ此魚海底にあらく。常に金汁を吸ふ。故に金色をなすと。三種味皆美なり。最金を勝れとす。赤られに次く。白亦あれに次く。此魚同時にとれを捕る。常のあまだひより頭に角あり。其色も金光なり。大なる者ハ尺五六寸に至る。江戸にて〳〵ハ金くづな紅くづなの二種も皆混稱くづまだひと云ふ

五十一 沖津鯛 和漢三才圖會 白くづな 同上 ちゝかハ 江戸 鼻折鯛 食療正要 此魚常のあまだひより少し後に多く捕得。鱗色淡紅。腹下及頰共に銀色なり。其鰭青く。尾青紅交る。全體鼠色にて帯ぶ。あまだひに比すれば形稍長く。眼あまだひより小なり。大なる者二尺に至る。肉ハあまだひより稍あらし。味劣ること雖ども乾魚となすに者尤美し。貴饌に供ふ。駿州にてハあまだひを單にたひと云く。常のたひとあまだひと云なり。右三種とも性無毒にして諸病に妨なし。

五十二 あまだひ 江戸 ゝちゝ 海魚考 てんじくだひ 隨觀寫真 ゝちゝ 越後 鈴鯛 食療正要 たかゞ 同上 夏月これを捕る。或ハ雜魚の中に交て來る。大さ一二寸の小魚なり。江海砂中に在て群行す。形狀常のゝちゝに似て身短く。鱗大なり。全身黄赤青色にして銀光を帯ぶ。あちの光に似たり。又金光の處もあり。鯛の形にも似て。額あつく。口上に向く。眼大にして淡紅。背に

う竪に黒條あり。鱗落やすく。肉厚く脆し。頭に石あり。
形に比ればいと大なり。

五十三 ねがとざか 隨觀寫真 ながら 藝州 形狀ふかに似て鼻及額厚く。眼大に。鱗ひろく。全身銀色にして。背に黒條ありて。頭より尾に至る。尾鰭は紅色にして處々金色を帶ぶ。是砂中に産する小魚にして。秋の頃釣りまくあるを捕る。味美なり。

五十四 ひのきだひ 隨觀寫真 ひのきさき 江戸 形畧鯛に似て稍狹く。尾小岐ひのきの如し。又ひさきに似て。鱗ひろく。口も大なり。全身黄と赤との横筋大小數條ありて。頭より尾に至る。其條邪斜にして正しからず。尾鰭共に同色なり。夏月これを捕る。此たひの類にひのきの一種にして。味性共に同し。

五十五 きつねたひ 物品識名 かのまだひ 隨觀寫真 栖處 性質 にもよる

たひに類して。岩石間に栖む。頭長く。嘴尖て。齒鋭く。其頭狐面に似たり。全身紅色にして。頭後より尾の前に至るまで赤色數條ありて。又赤色の康皮班ありて。尾鰭共に赤黄色。背鰭の半は深黒色の一点あり。其色鮮明にして美なり。鱗大にして硬かりし。肉に著く落て。微く粘滑ありて。大さ一尺五六寸許にて。肉と皮の間に脂あり。上品の者にありしが。冬春の間魚市に来る。

五十六 くちぐろだひ 大和本草 ゐのこだひ 本朝食鑑 ふるまだひ 隨觀寫真 こせだひ 食療正要 たぐね 海魚考 よしだひ 江戸魚商

形狀全くくちぐろだひに同し。鱗色黄黑にして。青黒の点あり。其嘴鋭く尖て。猪頭に似たり。大なる者一尺許。軒に作りて味美しと云。江戸にてはたひ少き時は。遊里及割烹家にて

まだひの偽物なり。此魚味真だひに次く。故に價も亦賤し。但貴人の饌に當らず

五十七 くちびだひ 海魚考 くちび 壹岐 ふくだひ 和漢三才圖會

くちゝだひ。海磯の岩石間に栖む。五六月これを捕る。形狀こだひに似て口尖て長く。鱗色淡黑赤なり。口中い甚だ赤し。故に口火だひと名く。又口中に齒大にして稀なり。大さ八九寸許。肉白く。油脂なり。微臭氣なれども佳なり。但鮮食し難し宜しく

と云。

五十八 おがだひ 物品識名 紀州熊野 おくだひ 日東魚譜 おくうと 食療正要

神田玄泉云。大鯛中國及九州有之。大八九尺。或至丈。味不佳。或曰。有毒。大海洋中に有り。駿遠州及下総銚子九十九里を魚市に來る。江戸魚商てゝだひと呼ぶ。三四月頃これを捕る形狀全くまだひに同し。但狹長さを異とす。大抵二三尺の者多く。小なる者を見ず。味美と雖ども肉硬して淡味なり。或云小毒なり。

五十九 めどろだひ 大和本草 日東魚譜 ふくふきだひ 江戸 ちやきだひ 和漢三才圖會

形狀くちゝだひに相似て身長し。今江戸の魚商は形長とふくと云。形短とくちゝと云。其長短ある皮まだひとながだひなるが如し。此魚頭尾共に尖て。眼の中鮮明なり。鱗色淡黑赤にして。又黃を帶ぶ。目の下頰の處黑点あり。背より腹へかけて黑班虎文に似たり。鰭小さくして黃白に黑の虎班あり。目の傍口邊黃赤色。其産地性味皆くちゝだひに同し。

六十 ぶだひ 隨觀寫真いがゝ 伊勢 海底石間に居る潛魚なり。冬春網にて捕る。形狀鮸に似て肥大尾に岐す。こぶだひに

類〻〻頭より瘤あり。背ひきの前より絲の如くなる者を一條出す。鱗大きして軟なり。鱗共より煮食くべし。頭より石あり。腹中より〻を出す。鱗色魚の大小より多く異なり。全體黒赤紫色を帯ぶ。黄なる細班或條班あり。腹の傍より白点出る。麥の如し。頭鱗多く。嘴尖り。口中より牙出る。秋の頃子を産す。其子を伊勢にくべらと云。甚ふなに似たり。其大なる者尺五六寸より二三尺に至る。肉硬く。味美佳なるべし。但毒なし。

六十一 あをぶだひ 隨觀寫真 あを 薩州此魚西南海に多し。形狀産處共に大抵ぶだひに同し。全體綠青色にして鱗に淡黄赤の條出る。眼中及嘴共に紅色。尾鰭大きして紅色なり。帯ぶ。大なるは二尺許。肉白く。味美なるべし。

漢名鶯哥魚。狀如鯉而潤色綠。嘴尖而勾曲。似鶯哥嘴故名。臺灣府志

六十二 さゞ魚わら 和漢三才圖會 ぶだひ 江戸混稱 さざめ 隨觀寫真

さゞ〻 藝州 良安云。榮螺破魚。形色似藻伏魚。而頭圓肥。脊中有沙。其齒如河豚魚齒。能咬食榮螺。故名之。春出於西海。肉味淡甘。筑前多有。此魚前條のぶだひと大抵一類なり。形肥圓ふくく。口小さく。頭肥く。無唇の如し。齒口中に隱れて外より見へ難し。口を開き見れば齒細くして八重に並生す。名荷貝の形に似たり。又あくせい收こざめの齒に類す。鱗大きして小砂あり。こぶだひに似たり。身後細く。尾は岐なく。刀を以て切なるが如し。鱗色淡黑に〻〻微紫又青を帯ぶ。腹丹色に黄なり。小なるは二三寸。大なる者は二尺に至る。味淡く佳なるべし。

六十三 感鯛 隨觀寫真 のぶと 海魚考のむ〻 同上 まべくさ〻〻〻 長崎

いそあいるめ 紀州おだわら 伊豆七嶋記 海魚考云のぶそ形甘だひよ似く横ひろく頭甚大よ末小なり口ひろく目ゆそく齒稀なり頭圓して厚く腹大よ尾岐なくして廣く鱗粗くして淡紫色紺青點章あり頭紫なして青色と帶ぶ目瞳の側よ小白絲あり其緣赤く其外黃なり眼のめぐりよ淡黃絲條あり口淡黃肩紫よ淡黃を帶ぶ肩の下よ綠色の大條あり背鰭黃なして本末青し尾綠色よ脇ひき其本黃なり唇柔らかして廣く外よ反る此魚肉中よ脂なくして皮肉の間最も脂多し之を煮るバ油鍋内よ充つ故よ一名鍋腐と呼ふ下品の魚なり此物岩石間よ栖む即磯魚なり三四月より之を釣る此魚味あゆるあよ似なれど惡き臭氣いなく佳なるべ

六十四 たひそ 江戸寒鯛 隨觀寫眞 あらのぶそ 海魚考 海底砂石中よ生ず形狀たひよ似たり額ハ尊く全身淡紅して其腹淡青白なり背より腮の傍よ至るまて斜よ一大黑條あり又身半後よ淡青の点あり頭尾淡黑色して少く青色を帶ぶ口中よ牙あり大抵尺餘よして大なる者ハ三尺よ至る是も冬月採る故よ亦かんだひの名を得たり

六十五 ていし 隨觀寫眞 てんそ 江戸魚商 此魚のぶそのの一種なして形狀も相似たりのぶそよ比すれハ頭上よ長き鰭あり頭のさき鋭く斧のごとの如し全身共よ扁して頭の先ハ殊よ薄し鱗大なれども軟なり又鰭尾硬うして鱗色紅と黃よして艶ありて美麗なり背上よ一小黑点あり鰭ハ紫青色なり味あまだひに似く美なり冬月稀よ魚市よ来る大さ八九寸許より大なるを見ず

六十六 のむしだひ 大和本草此魚形狀性味皆ていしよ同し・鱗色ハ異なり・全身淡紅なして・黄と紫との点章をなす・背鰭と頰ハ黄赤紫の三色混して・雲の如し・脇ひれ尾共に淡青紅の條あり・味ていしよ同し・ていしよのむしは是亦のぶその類なして・浅海十二三尋に栖む磯魚なり・

六十七 こぶだひ 隨觀寫眞もかむそだひ 水戸房州 もぶし 阿州 いせごい 同上 むくりだひ 越中 ぶどう 藝州 もくめん 西國 かそき 紀州 瀬魚

ふして・常に岩石の藻の中に居て出ず・故に藻卧等の諸名あり・形狀たひに似て・尾鰭軟にして刺なし・頭小微く方にして・目の上高く起り瘤の如く・又口の下起て高く・其歯鋭して牙の如し・鱗大にして・微く粘滑あり・全體ふなに類して・大なる者ハ三尺に至る・肉肥て硬く・微赤色を帶ぶ・味まだひに劣る・然

どもぶだひ及のぶそよりも美なり・煮食て骨なるも悪し・軟にして味佳し・冬月之を採る・四月の頃鰯を産ず・

六十八 もぶし 和漢三才圖會 もぶしだひ 本朝食鑑 くろのぶそ 海魚考 かんだひ 江戸 形狀大小性味共にこぶだひに同し・但瘤なきのみ・形全く鮒に似て大なり・肉厚く・黯紫色にして青色を帶ぶ・鬐尾更に青くあり・軟なり・此魚寒中に上る・故に寒だひと呼ぶ・漁人こもと釣るに拳螺を以て・殼を合て餌とする・魚一齧もすれば螺殼忽ち粉虀となる・歯至て剛なり・

六十九 たうのそだひ 和漢三才圖會 ふしきうを 日東魚譜 たかのそ 江戸 たうのそうと 海魚考 きつねうだひ 同上 こちだひのこと 越中 磯魚 にして・冬春これを捕る・形狀かいづに似て・眼稍上に迫る・口小く・唇厚くして皮廣く外に反て・あいぞの口に似たり・背

肩最も高く、黒色の斜條あり、鷲の羽に似たり。鱗色種々あり。大抵黄赤色或ハ紫と帯び、黒赤の者もあり。眼の中黄赤。尾ハ白点あり。鱗に粘滑あり。小なるハ三四寸、大なる者ハ一尺五六寸に至る。肉もろく微臭氣あり。味美なるべし。

七十　きくめだい　隨觀寫真めだい　同上江戸　くろだい　豊後くろちん　だい　同上　くろうと　大和本草　くろうを　壹岐　こしば　同上　ふ者　くろ色　ぶだい　伊豆七嶋記　大者　さくらだい　同上　ちぶくろ　同上　大海の磯に棲む。常に青藻を食ふ故に、いとも餌として之を釣る。又網にも採る至て得やすき魚なり。形狀ふるに似て口小にして肉肥く、尾鰭共に鯛に類す。鱗色黒く、眼の中口中皆黒し。腹ハ淡黒にして微青色を帯ぶ。小なるハ二三寸より尺に至る。極大なる者ハ二尺許に至る。冬より春までの間多く魚市に来る。肉に脂多くして味美と雖ども臭氣あり。盛饌の中に交ぜ、夏月亦稀に捕る。夏に色淡くして淡紫色に變ず。肉に脂なく味尤劣る。此魚たいのようだいと産處味性共に大抵同じ。二魚共に其味冬春の間宜し。

七十一　おなだい　和漢三才圖會　きぐめだい　隨觀寫真　いづだい　相州其産　處にしだいと同じく、瀬戸に棲む潛魚なり。形狀相似たるも大さ五六寸許。黒白の堅條相並び整し混ぜず。背より尾際に至る口小にして、歯上下各一枚、恰ふぐの歯の如し。中に粟粒許の細砂あり。全身に鱗なく、布目の形あり。鮫の皮の如し。因て其皮を剥ぎ食ふ。其肉ハ甚やわらかく、かわらぎ及ふさだいの肉に似たり。

七十二　ごまだい　隨觀寫真　うづだい　物品識名　此魚前條のごま

だひと一類にして別種なるべし只其皮色異なるのみ全體に深黒色の松皮紋ありてまき間なし形狀性味共に赤だひに同し

七十三 いしだひ 本朝食鑑 くろくち 藝州海の瀬戸に捕む形くろだひに似て肥大なり口廣く歯大にして並ぶ麦入の歯に似たり鱗色青黒色にして背より腹へうけて竪に黒色の大道數條あり鱗は細にして硬く剥ること難し肉は硬くして脂油少し上品の者は行とし然れども夏月味佳なり大さ尺より二尺に至る釣網にもこれを捕る春月に子を生ず此前條の赤だひごまいだひと一類にして味性ともに抵同し或云いしだひは赤だひの生長なるにて大なる者なりと恐らくは然らじ

七十四 あぶだひ 隨觀寫真 かたくぢ 同上 ふぐ 物品識名 めぐろだひ 同上 赤まだい 江戸魚商 ねづく 同上 かたむき 長崎 ろりぷり 對馬 やぐ 壹岐 淺海砂石中に棲む 投網又だまし網にくられを捕る水を出ること速に死す形狀あじに似て皮厚くして沙あるに支さめの如し皮を剥て木を磨るに用ゆ全身淡黒色にして背腹の間に木葉の文理あり大さ七八寸に過ぎず春子を生む夏秋の間味佳し肉白く赤まだらに味亦上品なり或云雲州にては此魚毒ありて人食りぬ却てふぐに八毒なりとて專ら賞して之を食ふ故に雲州より乾ふぐを獻ず或其地にては能毒も異なる歟

漢名毒魚 閩書南産志 獨魚臺灣府志

七十五 萬寶鯛 隨觀寫真 さめのまるを 西國 此魚かりぶぎの類

して異魚なり。頭の上に長短の刺あり。口内に牙歯有て鋭し。全身鱗の形なり。頭ハ深黒色。體ハ鼠色にして。腹ハ白き圓点あり。口唇大厚して。黄赤色。尾ハ鼠色に黒班を帯び。尾の先刀を以て切断するが如し。全身沙なりて鮫の如し。長さ五六寸許。春秋稀に魚市に来る。味性共に詳ならず。

隨觀寫真云。萬寶鯛。華人將來于長崎。往昔稱天魚。將来。與此大抵相似。

七十六 ひうちだひ 隅州 あんぐんだひ 江戸 とみうきだひ 隨觀寫真 海底岩石の處に棲む。形狀たひに似て短く圓にして。頭大堅く。水晶を割て製するが如し。故に火打だひとも云。眼ハ至て大り。鮮明にして青貝の如く光あり。又頭中に石ありて。其形長高くひろく。裏平に紋なり。口大にして廣く。腹下に短刺並出て鋸の如し。全體細鱗ありて淡紅色。尾鰭大なりて朱色なり。腹の裏皮黒くありとに類す。江戸魚市に稀に来る。性味詳ならず。

七十七 きんだひ 江戸 淺海砂中の小魚なり。長さ僅に三四寸許。此魚水中にある時ハ甚金色の光ありて美麗なり。故に金だひと呼ぶ。形狀くろまだひに似て小なり。肉白く。味淡く毒なし。

七十八 くろまだひ 江戸 其産處形狀共に金だひに同し。但背鰭腹下の鰭共に大刺と出て。目下腮上に刺あり。細鱗に小刺あり。恰も鮫の如し。全身赤色朱を塗たるが如く。且白班あり。鰭尾大にして。其先毎に黒色を帯ぶ。其色美好愛すべし。性味共にさんだひに類す。

七十九　めぬけだひ　仙臺きんめだひ　江戸魚商ともそ　小田原形だひ

に似て、口目甚大なりて相應なり、又めだるに似て鰭尾長く尖て細く、背鰭ハ小なりて中央にあり、こまだひめだるの類にハ異なる所なり、鱗の上に小刺出て鮫なだの如し、目中赤く黄色を帯て金色に視る、因て金眼と呼ぶ、全身紅色にして、腹ハ薄紅白なり、其色風化する時ハ忽ち白色に變ず、肉白く脂なく、脆くして腐易し。

八十　ありめだひ　隨觀寫真　あびきだひ　自東魚譜　むきぬきびと　同上

ときめだる　同上　此魚前條のめぬけだひと形狀相似て、めぬけだひに比すれば背鰭大にして、緑色の点文あり、形狀めだるに能く似たり、又だひにも似て目口ハ大なり、是もと魚にして大なる者と見ず、

八十一　きんだろう　江戸魚商ぎんめ　同上　馬盗人　大和本草　此魚きんめと同類にして、形も大抵似たり、但全体短く、稍闊く、尾に岐なく、鱗紅朱色の光あり、小なるハ二三寸、大なる者尺許、冬春魚市に来る、魚商ハ形短く尾に岐なきを銀めと云、形長く尾に岐あるを金めと云、此二魚肉白く、小だひに似て味淡し、因て小だひなき時ハ鮓商往々小だひに偽て鬻く、

八十二　ぼふだひ　防州　ぢゆだひ　藥性解　ちだひ　同上　へいけ　肥前唐津　深海水底に生ず、形鯛に似て鱗色緋にして、金光を帯ぶ、身濶く、形圓に頭ハ目なるに似て、口目共に甚大なり、鰭大にして廣く鋭し、尾に岐なく大なり、小なるハ五六寸、長尺許、甚老たる者有と云、肉脂なく味美と雖、だひの味に及ぶべ、最腐易し。

八十三 たひのごとき越中形狀くるまだひに類して鱗細して銀色の光又猩燕子色を帯ぶ形圓に身扁く鰭尾の端黑色を帯ぶ眼甚大く口も大なり全くくるまだひの一類にして大なる者なり肉は白く味美なり金小鯛車鯛眼ぬけ鯛赤目鯛金太郎紅鯛此六種能毒性味共に大抵相同し

八十四 きんだひ 隨觀寫眞きんぎょだひ 浦賀さざゑ物品識名 大海岩石に栖む小魚なり長三寸許形小だひに似く鱗大にして硬く束針紋をなす他魚と異なり眼大にして黄を帯ぶ口大にして微歯あり全體黄色にして背上薄紅光沢あり其色金魚に似たり味美なり

八十五 鯛のむと源八通稱 とふだひ 物品識名きんうを同上 つなだひ 同上 ろひうを越中 まつかさうを長崎 おやらほに 隨觀寫眞 駿州

海底岩石の間に産す形狀小だひに似く圓肥鱗大にして硬く全身うろこまだらに類す毎鱗稜あり文を爲す其形松の實に似たり故に名づく長寿にして皮を剥き食へば肉硬く味美なり肉至て少し好事家全身を乾枯して席珍とす江戸近海及諸州これあり此魚背上頭に近き處に針三本あり其針尖にして長一寸両邊短き者五六分許又腹に二大針あり鋸角の如し常に此針を以て右に分きて小魚などを刺食ふ

漢名君魚 太平御覽引沈懷遠南越志云君魚長三寸背上骨如筆管大者似柔逢諸細魚及蠶腹皆斷之

八十六 一斗鯛 隨觀寫眞 まだひ 相州浦賀 形きんだひに似く鱗大にして束針紋をなす其針金だひより長し又鱗毎に白点あり其ふち光沢ありて青貝の如し其色美麗なり唇は

上ハ四下ハ凸し。長六七寸味美なるべし

八十七 石張鯛 隨觀寫眞 かげきよ紀州 夷だひ 江戸俗稱 形狀金だひに似て大なり。尾ハ岐なり。鱗色正し赤く火の如し。又鱗毎に紅点あり。鱗甲甚硬く。鰭尾共に鋭き刺あり。鱗に刺あり。金だひ一斗鯛に類す。但二魚に比すれば味甚勝る。

八十八 錦鯛 和漢三才圖會 具足魚 同上 隨觀寫眞 源八だちめ 越中げんだち 九十九里 大洋にて稀に之を得る。鯛の類とハ大に異なりて。肥大なる。鱗殊に大に。堅硬なる支巖石の如し。或ハ鱗にて手を切る故に剥こと得ず。庖人出刀の背にて鱗をそぐと云。全身紅の光ありて如く。又刀物の光とも錦とも見ゆ。眼ハ淡青に鮮明なり。上唇に缺たる處あり。下唇の出張たる所に入る。板の上に腹を付て安置すれば。其肚下平にして。ふたるハ一二尺大なる者ハ三四尺に至る。其肉白く。鱗上より透徹する支。鯛のむと源八に似たり。全体鮮腥なれども。肉白く味淡美にして。上品なり。漁人云。常に海底に在て甚鋭く。得がたき魚なり。

漢名鐵甲魚 臺灣府志

八十九 鹿子鯛 隨觀寫眞 きんとき だるま 藝州 きんとき 江戸 洋中に生ず。形狀性味共に一斗だひに類す。大さ五六寸許鱗殊に大にして。其末短刺を帶ぶ。全身紅色にして。且紅色の豎すじあり。又毎鱗白点を帶て。其ふち青貝の如く。光る。其尾鰭黄色。口鼻狀他魚と異にして。形畧龍面に似たり。味美なるべし。

九十 ゑびそだひ 隨觀寫眞 江戸 伊豆七島記云。てい鯛の類なり。其形尖にして。海底七八十尋より百餘尋の深きに棲む。遥か沖にて釣る。味たひと同じ。首異形にして。尾に岐なり。蓋此魚を云ふ

り其大なるハ二三尺ばかり全身銀色にして淺紅色極めて鮮明なり其肉透徹りして黄かすべの如く味亦佳好なり

水族寫眞說卷之一終

東方以魚爲常饌自古已然況我
日域環以大海水族之富蓋甲萬國則其於品類性味烏可不精加辨識乎魚仙有見于斯殫思積年手寫其眞參互稽覈凡若干卷至巧且精遂擅從前未

特 7
Z
152

有之奇又能廣人異聞資人攷
鏡識蘇林一盛事也抑聞先儒
稱山海經爲畫圖之學則魚仙
之作庶乎亦得古之遺意者歟
爲之三歎乙卯仲
醉日三松老
人元堅識

国立国会図書館　タイトル『水族写真鯛部』　請求記号 特7-152
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『水族写真鯛部』　請求記号 特7-152

ガラス使用